

新潟市議会代表団  
第7回北東アジア地区地方議会議長フォーラム 出席報告

◎期 間

平成28年4月18日（月）～4月20日（水）

◎開催地

韓国・忠清南道

◎出席者

新潟市議会代表団

団長 高橋 三義（新潟市議会議長）

団員 加藤 大弥（新潟市議会議員）

佐藤 豊美（ ” ）

小山 進（ ” ）

随員 斎藤 博子（観光・国際交流部長）

藤崎三七雄（議会事務局議事課長）

諸橋 武志（国際課副主査・通訳）

高野 旭（県ソウル事務所次長、通訳、現地合流）

◎日 程

4月18日（月）

新潟空港出発、仁川空港到着

忠清南道農産物展示コーナー視察、スドクサ（修徳寺）視察

4月19日（火）

キム・ギョン忠清南道議会議長表敬訪問

キム・ギョン議長の案内による工芸品展示会及び百済歴史文化広報館の観覧

アン・ヒジョン忠清南道知事との面会

地元メディア・インタビュー（高橋議長）

祝賀公演（地元中学校吹奏楽団）

第7回北東アジア地区地方議会議長フォーラム

・基調講演

・各地方議会議長による発表（各地方政府地域の観光広報映像を上映）

・合意文に署名

「北東アジア文化・観光の交流協力のための議定書」（忠南議定書）

・次回、第8回フォーラム開催地（モンゴル中央県）発表

フォーラムに並行して「観光関係者（民間）交流会」開催

斎藤部長、高野県ソウル事務所次長出席

4月20日（水）

百済文化団地視察

仁川空港出発、新潟空港到着

## ◎概要

### 【忠清南道農産品展示コーナー視察】

忠清南道に向かう人々をターゲットに、地元農産品を紹介、販売している。広大な土地を背景に立地しており、各種販売施設も併設し賑わいを見せている。さしずめ日本でいうところの道の駅のようである。施設長によると地産地消を推奨しているとのこと、日本で生まれた地産地消の言葉が韓国でも用いられているとのことであった。



### 【スドクサ（修徳寺）視察】

修徳寺は、忠南 禮山郡 徳山面 徳崇山麓に位置する大韓仏教曹溪宗第7教区の本寺である。修徳寺が徳崇山に位置するのは時代的・地理的要因によるものである。6世紀頃、韓牛島では三国が中国(南 北朝)との交流のために海上交通の要地を確保しようとしたが、その課程で百済は漢江流域を喪失し、錦江流域を中心に国際関係を維持するようになった。このことから泰安半島を中心とする忠南の西海岸地域は、中国の文物と仏教文化が流入される重要な通路となった。このような当時の政治的状況や地理的条件から修徳寺を始めとする多くの寺がこの一帯に位置することとなった。

#### (歴史と現代)

修徳寺の創建年代は正確には分らないが、学界ではおよそ百済威徳王(554～ 597)の在位時に創建されたと言われている。修徳寺は百済の仏寺の中で唯一現存している仏寺である。

1962年3月25日に公布された宗憲によって修徳寺は、大韓仏教曹溪宗第7教区の本寺に昇格し、現在忠南一帯五地域47ヶ所の寺と管外25ヶ所の寺を管轄している。

1984年11月29日、修徳寺は禅仏教の中興の祖である鏡虚・満空禅師の近代禅風振起で徳崇叢林に昇格した。叢林とは禅院・講院(僧伽大学または曾伽大学院)・律院(律学曾伽大学院)及び念仏院を持ち、本分宗師である方丈の指導下に大衆が如法に精進する総合修行道場のことを言う。徳崇叢林は大韓仏教曹溪宗の5大叢林(曹溪叢林・松広寺、雲鷲叢林・通度寺、伽倻叢林・海印寺、徳崇叢林・修徳寺、古佛叢林・白羊寺)の中の一つである(\*2012年に3つの叢林が追加された)。

1996年に修徳寺は、僧伽大学(講院)を開設し曾伽教育を担当している。

徳崇叢林は、禅修行の基礎を築いた鏡虚禅師と、修徳寺・定慧寺(比丘禅院)・見性庵(比丘尼禅院)を重創し、全国の僧侶達を教えて禅風を振起した満空禅師により、禅風をとどろかせた禅之宗剰である。これ以外にも、徳崇叢林には香泉寺、開心寺、大蔵寺、梅花無門開(以上比丘禅院)を始めと

する普徳寺、法輪寺(以上、比丘尼禅院)にて、安居の度に約200余名の和尚たちが修行精進しながら禅脈を受け継いでいる。ここに毎月陰暦の晦日には多くの僧侶たち(四部大衆)が集まり徹夜精進を通して弾修行を実践し、夏の時期には禅実践修練会など、禅の生活化と禅風振起の伝統を継承している。

修徳寺は、社会的役割を遂行することで下化衆生を実践している。傘下に礼山老人総合福祉館と修徳寺老人療養院を通してお年寄りへのケア任務を担当し、香泉寺付属の香泉幼稚園、瑞光寺付属の瑞光保育園、瑞光幼稚園、泰安・興住寺保育園などを通して、次代を担う子どもたちを養育している。



#### 【キム・ギヨン忠清南道議会議長表敬訪問】

キム・ギヨン議長は昨年、第6回北東アジア地区地方議会議長フォーラム参加のため、本市を訪れており、高橋議長とは2回目の会談となる。



冒頭、キム・ギヨン議長は、「高橋議長を初めとする新潟市議会代表団の皆さまのお越しを心から歓迎する。この様なお元気な姿で再びお会いできてうれしい限り」と切り出した。続けて同議長は、このたびの熊本地震について触れられ、「忠清南道と熊本県とは昔から姉妹関係を結んでおり、熊本県に大地震が発生したということを通してマスコミを通じて伝わり、被害の現状などを知り、残念な思いを禁じ得ない。今回の地震で被害にあわれた方々には、心からお見

舞い申し上げる。いち早く復旧して、もとどおりの生活ができるよう祈願している。」と述べられた。まさにキム議長の心優しい人柄を感じ取ることのできる一幕であった。

この後も話は続き、私ども訪問団に対してキム議長は「昨日、忠清南道に到着され、ご不便なことはなかったか。」などと述べられたので、高橋議長は一言「大丈夫です。」と応じ、「新潟市には韓国と中国、ロシアの領事館があり、皆さんとは仲良く交流させていただいている。」と述べた。

引き続き「昨年、9月に新潟市で開催されたフォーラムの際は、新潟に来ていただき、ご不便はなかったか。」などと、今度は高橋議長が述べたので、キム議長は「昨年お邪魔して、非常に印象深かったことが沢山あった。忠清南道からの訪問団を温かく迎えていただき感謝している。新潟市での第6回フォーラムに参加することで色々新しいことを学び、今年1年、本フォーラムを準備するのに役立った。改めて感謝申し上げます」と応じ、会談は和やかな雰囲気包まれた。

この直後、高橋議長は、このたびの第7回北東アジア地区地方議会議長フォーラムが「文化だけ

をテーマにせず、一步踏み込んで、文化と観光の両面からなる交流を実現しようとするもので、大変ありがたい。」と述べたことで、両者の会談は今回のフォーラムのテーマに話が及ぶ。

あらためてキム議長からは「昨年、新潟市で開催された第6回フォーラムのテーマは文化だったが、今回の7回目のフォーラムは文化に加え観光もテーマに据えた。今回のフォーラムを通じて、これからも相互交流とか、何か博覧会であるとか、地域のお祭り、あるいは展示会な



などをお互い開催するなど、新潟市と忠清南道側で、さまざまな交流を推し進めることで、さらに緊密な関係を築いていけたらと思う。今回の訪問をきっかけとして、これからの新潟市と忠清南道の関係がさらに深まることを祈っている。高橋議長を始めとする新潟市の議員の皆さまが、これからは忠清南道にもっと訪問していただくことを望んでいる。」などとする、このたびの訪問の核心に迫るキム議長の発言に呼応し、高橋議長は「仁川空港から忠清南道に訪れるまでの景色、自然、川とか、新潟市と似ている部分があり、親しみを感じた。今回の訪問だけでなく、次回も忠清南道を訪問したい。」と述べ、両者の会談は和やかな雰囲気の中、終了した。

## 【地元メディア・インタビュー】

(高橋議長発言要旨)

前回のフォーラムを新潟市で開催させていただき、キム・ギョン議長を初めとする忠清南道議会議員の皆さまからご参加いただき、その時に、我々の方から何か具体的な動きができるようにと意見を出させていただいた。キム議長より今回観光関係者交流ということで実質的な動きにつながる機会をつくっていただいたことに感謝申し上げます。

昨日(18日)、スドクサ(修徳寺)の住職が説法の中で「これから北東アジアが中心となって



世界が動いていく」というお話をされた。住職のお言葉の通りだと思う。このフォーラムがきっかけとなって実行に移して行く時であり、議会だけでなく市の執行部、行政の職員も出席しての会合。活発な意見が交わされ、具体的な行動になっていくことを期待する。

(これからの取組についての質問に) 平和ということが何よりも大事だ。韓国と日本、そして中国とは過去のこともあるが、広い心を持って、また思いやりの心を持って交流を深めていくと先が見えるのではないかと思う。

### 【祝賀公演（地元中学校吹奏楽団）】

フォーラムの開会前段に「開催祝賀文化公演」と銘打ってイェサン中学校の管弦楽団の演奏が披露された。同管弦楽団は韓国内のコンクールで優秀な成績を残す楽団であり、約 20 分にわたって洋楽のスタンダードナンバーやポピュラーなクラシックをメドレー演奏。式典を大いに盛り上げた。



### 【第7回北東アジア地区地方議会議長フォーラム】

北東アジア地区の経済発展事業に対する理解促進や地方議会の相互交流及び友好促進の目的で開催されているこの議長フォーラムは、今回で7回目を数え、韓国の忠清南道において3日間の日程で行われた。（新潟市では第2・第4回の2回開催している。）

とりわけ今回は、昨年の新潟市開催での「何か具体的な動きができるように」との提言を受けた形で、新たな取り組みとして観光担当者交流もあわせて開催され、実質的な展開につながる機会をつくっていただいた。



フォーラム開会セレモニー

フォーラムには、韓国、中国、ロシア、モンゴル、そして日本からは奈良・秋田両県議会も加え5カ国・10地方議会代表団が一堂に会して、「北東アジア地域間の観光交流と協力」をテーマに、各代表がそれぞれテーマ発表を行った。

（高橋議長発表要旨）

～新潟市の四季を題材にした動画を2分程度映写～

- ・日本における観光の動向について

日本政府は2020年の訪日外国人観光客数の目標を、年間2,000万人から4,000万人に倍増する方針を表明した。近年は外国人旅行者の増加により、首都圏ではホテルやバスの不足、宿泊費の高騰などの影響が出てきている。リピーターは日本での新たな訪問先を探しており、少しずつ地方都市に目が向いてきている状況である。

- ・新潟市の観光の現況と取り組みについて

観光での新潟市来訪者は増加傾向にあり、外国人述べ宿泊者数も前年比38.6%増加し約59,000人となっている。新潟市の個性である食と花、港町文化を初め、豊かな自然、温泉、

文化、イベントなどの観光資源や空港、港湾、陸上交通網が充実した交通結節点であるという強みを生かして、国内外で観光プロモーション活動を行い誘客を図っている。また、魅力向上に向け、農家レストランや農業体験などを利用した新潟ならではの食文化体験型のツーリズム、魅力あるエリアの形成や広域観光ルートづくりに取り組んでいる。



・北東アジアにおける観光分野の協力について

新潟市は北東アジアの5都市と姉妹・友好都市提携を行っており、様々な分野で交流を深めている。また、本市議会は、姉妹・友好都市以外の都市とも、議会同士による交流協力の覚書を交わしているほか、この議長フォーラムには第1回から毎回参加している。



今回のフォーラムを通じ、皆さんと意見交換するなかで、協力関係の発展を期待するとともに、このネットワークを観光分野の協力に活用していくことを新潟市からも提案したい。

今後、東京で夏季オリンピック、韓国・ピョンチャンで冬季オリンピックが開催されることにより、今以上に北東アジアに期待が高まることから、観光ニーズを的確に把握し、観光政策を進めることが求められる。北東アジアの地方議会としても具体的な活動を検討し、相互協力することで、観光市場の活性化と拡大に繋げていこう。各代表団は政府や観光関係者へ、このフォーラムで得た情報を届けて観光客のニーズにあった旅行商品の造成に協力していきましょう、と提案した。

(合意文に署名)

「北東アジア文化・観光の交流協力のための議定書（忠南議定書）」

- 1 北東アジア地域においての多様な文化に対して相互尊重し、交流を実質的に活性化させるため、各分野の民間交流を積極的に拡大していく。
- 2 各地方議会は地方自治団体の世界的な博覧会、体育大会、お祭りなどの国際行事を開催する際には相互訪問し、参加できるように門戸を開放し、成功的な行事になれるよう協力する。
- 3 各地方議会は地方自治団体の活発な文化と観光の交流に協力を拡大し、経済交流に繋げ

て行けるよう共同の努力をする。

- 4 第8回北東アジア地区地方議会議長フォーラムはモンゴルTUV道議会で開催とする。
- 5 忠清南道議会は忠清南道議会在が製作した北東アジア地域の地方議会議長フォーラムのエンブレムを基本デザインの維持できる範囲で各地方議会の実情に合わせ変形して使用することに同意する。

以上5項目の合意事項を確認し、フォーラムを終了した。



合意文（忠南議定書）に署名する高橋議長



署名した合意文を手記念撮影する各地方議会議長

#### 【百済文化団地視察】

百済文化団地は、百済の歴史と文化を世界に広めようと、1994年から2010年までの17年をかけ、忠清南道（チュンチョンナムドウ）扶余（プヨ）地区一帯の327万6千平方メートル（約100万



坪)に6,904億ウォンを投資して建設されたもので、百済王宮「泗泚（サビ）宮」や百済の典型的な寺院「陵寺（ヌンサ）」の他、階級ごとの生活文化を展示する生活文化村、開国初期の宮城「慰礼城」、そして古墳などの見学もできる「古墳公園」も設置されている。更には、道民の寄贈によりつくられた「百済の森」、百済の歴史と文化を展示した「百済文化会館」等など、1,400年前の文化大国『百済』の様子を観察することができる一大団地である。

#### ・泗泚（サビ）宮

泗泚宮は、三国時代の王宮の中でも韓国内で初めて再現されたもので、百済の歴史と文化がその絶頂を迎えた、首都が泗泚地区にあった時代の宮殿である。中央に配置された「治朝」部分が再現されている。様式は、下昂（尾垂木）を利用した柱心包式栱包様式で、雄壮かつ繊細な百済の典型的な建築様式となっている。

#### ・陵寺（ヌンサ）

陵寺は聖王の冥福を祈るために建てられた百済王室の寺院であり、建物の間隔や柱の大き

さ、柱の間隔などを発掘された遺構と同じスケールで再現されている。当時の陵寺が、発掘調査の結果、中門―塔―金堂―講堂が一直線上に配置されるという百済時代の典型的な伽藍様式であったことが確認されており、この様式に則り再現されたものでもある。

・陵寺五重の塔

心礎石が発掘されたことにより、西暦 567 年に舍利を奉安して塔が建てられたことが判明している。韓国で初めて再現された百済時代の木塔で、高さは 38 メートルである。

いずれの建築物も仏教の基本思想に則ったものであり、日本の寺院の建築物が大陸からの仏教の伝来とともに同様に受け継がれてきたことを改めて確認することができた。

◎所見

このたびの忠清南道のキム・ギョン議長との会談は、大変重要な意味を持つものになったと言える。韓国と日本という国同士は、竹島などの領土問題が存在し、複雑なバランスの中で両国の緊張関係が築かれてきたが、この度の第 7 回北東アジア地区地方議会議長フォーラムは、まさにその垣根を越えて、民間レベルでの交流の重要性をあらためて認識する機会となったことは間違いない。

キム議長が熊本地震に触れられ、心を痛めているというやり取りがあったことは、さきほども触れたが、実はこの他に、この度の地震を通じて日本の危機管理に対する大変興味深い発言があったことに触れておきたい。キム議長は「日本では自然災害などが起こった時に、それに対処する能力や、建物の耐震設計などがしっかりしていて驚くばかり。韓国では、まだ耐震設計とか、災害に対する能力が日本に比べて劣ると思っている。日本の方々には危機状態の中でも皆さん落ち着いていて、対処する能力が素晴らしいと、いつも感謝している。」と発言された。

最後のキム議長の「感謝」という発言には、同議長の人柄だけでなく、この方の持つ哲学が感じられる発言である、これこそ地方と地方の交流が如何に重要か。そこには国同士が抱える壁は一切なく、人と人の交流、所謂民間交流ならではの醍醐味があるのではないだろうか。

とは言え、今回のテーマである「文化と観光」交流は簡単なことではない。

キム議長が提案された、「相互交流」を如何にして実現するかが、今後の忠清南道と本市に突き付けられた大きな課題であり、これをどう乗り越えて緊密な関係を築くことができるか、お互いこれからも議論を交わすことが重要と考える。

今回は、新たな取り組みとして観光関係者による交流の機会が設けられ、実務に携わるメンバーも含めて意見交換が行われた。このことは、北東アジア地区の繁栄と発展に向けて一歩前進したものであり、参加者における今後の交流発展とさまざまな分野での協力関係構築の進展が大いに期待できるものであった。